

3 1. 《汐留川の形成と流域喪失・江戸城郭・流域関係史》

汐留川は、江戸時代、溜池として外濠に組み込まれ、下流部は人工的に形成され、そして近代化の中で流域を失いました。

まずは、江戸づくりを3段階に分けて紹介する中で、汐留川形成に触れます。

第1段階（1590－1615 年頃）徳川家康の江戸入府から大坂城陥落迄

当時江戸城の前の日比谷は、本郷台地から突き出た半島状の微高地（前島）に挟まれた谷で、海水も入り込む湖沼のような地形でした。

そこで、1590年（天正18）、築城資材運搬路として、前島を横断する道三堀（現日本橋川）が掘削（注1）されます。そして1603年（慶長8）、日本橋が前島の中央地点に架橋、1612年（慶長17）に前島の海辺に三十間堀が造られました。

また江戸城の水源とするため、神田川水系の支川を堰き止めて千鳥ヶ淵と牛ヶ淵を、汐留川水系に溜池を築造しました（注2）。

第2段階（1615－1657 年頃）大坂城陥落から明暦の大火迄

1620年（元和6）、江戸に流れ込んでいた平川は、上流部分が、神田山（注3）を開削された放水路で隅田川に注がれ、神田川となります。下流部分は、残流域だけを受け持つ日本橋川となりました。また神田川上流は水道水源となって神田上水が築造され、市中に上水が引き入れられます（注4）。

日比谷入り江の外周にグルッと水路が掘られ、汐留川と日本橋川（道三堀）に連結します。水路は日比谷入り江の水はけを良くし、その掘削土は入り江の埋め立てに使われたと考えます。江戸城側の水路は内濠に、前島側の水路は外濠となります。

汐留川は、虎の門で海に注いでいましたが、日比谷入り江を横断する水路に導かれ、三十間堀を合流させて海に流されました。そしてその河口に、1654年（承応3）浜離宮が埋め立てられ、浜離宮の北西を流下して海に注ぐこととなります。一方、三十間堀より海側は、埋立てすなわち築地が行われていき、築地川が形成されていきました。（注5）

また玉川上水が、1653年（承応2）に築造され、多摩川から江戸市中に上水が引き入れられています。

第3段階（1657 年～ ）明暦大火（明暦3）以降

両国橋が架けられ（注6）、隅田川以東に市街地が拡大されるとともに、江戸城

近くの寺社仏閣が移転します。そのとき、浜離宮の東側が埋め立てられ、築地川が延長されて浜離宮に沿った川筋となりました。

さて、汐留川が、浜離宮の南西側に沿って流れるようになるのは、関東大震災以降のことです。干潮時に海上から緊急物資を運べなかったことから竹芝ふ頭が建設され、その結果、竹芝と浜離宮の間を流れることになったのです。

その後、汐留川は、明治年間に埋められ（注7）、下流部はオリンピックの前に埋められて上空を高速道路が走るようになって、最下流部の浜離宮に沿った部分だけが残りました。

こうして汐留川は、流域面積を持たない河川になりました。しかしそれでも、河川整備基本方針を持つ立派な河川です。なお、汐留川に流れ込む打ち水水路構想は、往時の汐留川の概形を地上に表出させる構想といえます。

注1： 太田道灌の江戸城に海からアクセスしようとする、土木技術的に推察すれば、前島を掘り割る最短コースに水路を掘ったと考えます。それが道三堀だったと考えます。

注2： 神田川は、1970年（昭和45）に一連の河川名となった呼称です。それまで神田上水の取水口だった地点から飯田橋間は、江戸川と呼ばれていました。また、汐留川は、その昔、虎ノ門にあった汐留堰から下流の呼称でした。ここでは、水系名として、神田川、汐留川を使用しています。

注3： 神田山は、神田川開削後、切り離されたところが宅地に造成され、家康死後、駿府城配下の武士の住まいとなり、名前が駿河台となりました。

注4： 神田川は、井の頭の湧水が水源です。神田上水は、関口地点から取水され、後樂園、水道橋を経て、江戸市中に呼び込まれました。寛永時代（1624－1644）に完成したとされます。関口の取水堰改良工事に従事した土木技術者に、松尾芭蕉がいます。芭蕉は、1666年（寛文2）に水道改良工事現場を離れ、隠遁生活を経て俳諧の旅に出ます。

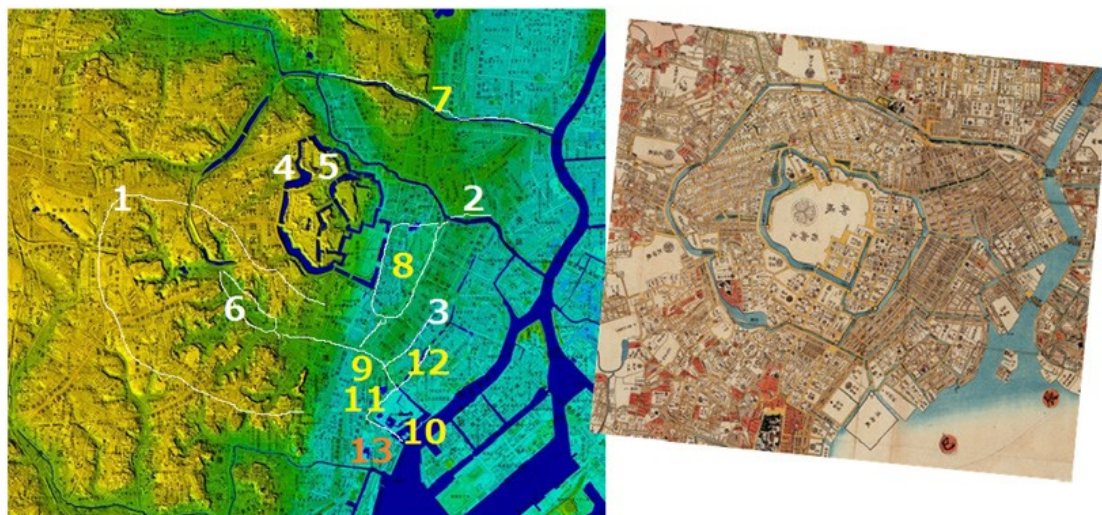
注5： 前島の海辺には、汐留川方面に三十間堀が、日本橋方面には楓川（もみじがわ）が造られ、その中間地点の前島を横断する形で京橋川が掘削されています。三十間堀の前面が干拓され、水はけと水運を兼ねて築地川が形成されます。干拓地の東端は、京橋川が延長された桜川です。

注6： 隅田川は、武蔵国と下総国の境を流れていました。その架橋は、奥州街道の千住大橋しか認められていませんでしたが、明暦大火の後、両国橋の架橋が決断されました。

注7： 溜池の埋立て時期は不明。地図から完全に痕跡がなくなるのは昭和初期の地図です。

写真は、①国土地理院高密度標高データ画像（国土地理院HPより）と、②江戸末期の御江戸大絵図（鹿児島大学附属図書館所蔵、東京時代MAPより）を並べ、本文の記述順序に従って①に番号を付け、その地名や出来事を書いたもの。次ページには、原図を掲載。

江戸城郭・流域関係史図



- 1 : 汐留川流域 2 : 道三堀（現日本橋川） 3 : 三十間堀 4 : 千鳥ヶ淵 5 : 牛ヶ淵 6 : 溜池
7 : 開削された神田川 8 : グルッと掘られた水路 9 : 延長された汐留川 10 : 浜離宮
11 : 浜離宮の北西を流れる汐留川 12 : 築地と三十間堀 13 : 関東大震災後の竹芝ふ頭

①



②

